

日本キリスト教会 府中中河原教会

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail fuchu_nakagawara_church@hotmail.com

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

牧会書簡／小会だより／

礼拝式文・説教／

聖書の学び／日々の祈り

2020年3月29日（第一報）

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、府中中河原教会では、2020年3月29日から4月末までの礼拝、祈祷会、その他集会をお休みします。このような時こそ「共に礼拝し、祈り合う」ことの意味を確認したいとの思いから、この便りは編纂されました。礼拝休止期間中、これから週ごとにお届けしますので、ゆっくり読んでくださり、家庭礼拝や祈りの手引きにお用いください。

目次

目次

牧会書簡（1）敬愛する皆さまへ～この「告白の事態」に……	1
小会だより（第1回臨時小会報告）	4
礼拝式文＋説教「礼拝の記憶と帰還の希望」（3月29日午前10時半）	6
聖書の学びの手引き「旧約聖書における病と癒し」（予告）	13
日々の祈り（予告）付：カルヴァン（渡辺信夫訳）「夜、眠りに就く時の祈り」	14

牧会書簡（1）

敬愛する皆さまへ

～この「告白の事態」に、教会活動のための外出を控えて祈りの証をしましょう。

こんばんは／おはようございます／こんにちは。

私は今、眠れない夜にこの牧会書簡を認めていますが、いかがおすごしでしょうか。どの時間帯にあなたがこれを読んでいるのか、わたしにはわかりません。けれども私たちが今や寝ても覚めても、世界のどこにあっても、同じ不安を共有していることに違いはありません。まして、私たちにとって「生命線」（2月27日付の大会議長書簡より。日本キリスト教会HP参照）だと信じてきた礼拝をはじめ、祈禱会も、その他の集会も、すべてお休みとなるというお知らせが、教会から皆さまに届いている今はなおさらです。改めまして、府中中河原教会牧師として、教会活動のための外出は、これを自粛していただきますよう、お願い申し上げます。

このようなお願いをするに至った経緯について、少しご説明させていただきます。

新型コロナウイルス（SARS-CoV2）感染拡大防止を目的とした、都の「外出自粛要請」（3月25日夜）をうけた私たちは、諸活動に注意を要する「特別の事態」（当教会で欧州の法規則にならない非公式に用いてきた語）から、例外措置を講ずべき「緊急の事態」へと、事柄の切迫度がいよいよ高まりつつあることを確認せざるを得ませんでした。すでにそれに先立って、日本キリスト教会を含む国内諸教派の対応や、オリンピック延期発表を巡る動向（3月24日）、また、事実上のロックダウン（町や州規模の封鎖）状態に置かれた各地からの声に鑑み、教会活動を継続できるのか、長老たちとの電話やメールによる協議（3月25日早朝から午後にかけて）が始まっていました。それでも実は、25日午後までは、長老間で礼拝継続を求める声はまだ多数を占めていました。しかし本日3月26日に召集された臨時小会（長老会議）において、（私が少々強く主張しましたから責任は一番大きいのですが）上記のような現状認識と、礼拝休止の必要と意義が、全会一致で認められるに至ったのでした。小会開始直前には、中会議長書簡が届けられてもいました。そこには、この事態では礼拝を休む決定も尊重される旨が伝えられていました。

もちろん、臨時小会における議論で、礼拝が大切だとの基本線が疎かにされたものではありません。小会では、とくに以下3点が今回の決断の理由として整理された結果、むしろ積極的な賛意が最後に全員から表明されるに至ったのでした。

牧会書簡（1）

【礼拝休止の決議に至った主な理由】

- ① **命を大切にするため：** 神が独り子をたもうほどに愛し、御子イエス・キリストご自身が命を差し出してでも救おうと望まれた世の命を、教会もまた、何を犠牲にしても大切にすべきである。まして私たちが他者や自らの命を脅かす「無症状・無自覚の感染源」や「クラスター」となる可能性は、最大限の力を尽くして退けたいと願う。比較的移動が多く、しばしば病院にも足を運ぶ牧師を中心に、感染減となる危険性が否定できない以上、愛する兄弟姉妹や地域の方々、思いもよらない繋がりや触れ合いを与えられている全ての隣人の命をまもるための措置を、教会がとることは当然である。

- ② **礼拝をかえって重んじるため：** 教会堂での礼拝を休止しても、私たちが教会共同体に連なる礼拝者でなくなるわけではない。礼拝休止の「非日常」は、むしろ私たちにとって、神を崇めることがいかに自分たちの悩み多き「日常」を支えてきたかを、改めて覚える感謝の契機となるのではないか。

また、礼拝休止は、私たちにとって、ある日突然自分たちの新たな日常となるかもしれない「礼拝に足を運べない事態」から目をそらさず、たとえば老いて、あるいは事故や病気や^{いさか}諍いや、生きるための労働の必要等によって、たとえば詩編42編の詩人が覚えた疎外をいつか身につまされても、神を崇めて兄弟姉妹のために祈りつつ生きるための、ひとつの訓練となるのではないか。

礼拝休止措置によって、恐らくそれぞれの弱さや孤独、家庭の課題等もあぶり出されるが、その中で私たちは、家庭礼拝を、つまり生活に直結した礼拝をもつよう促される。もちろんそのような家庭礼拝を知るものが、ついに忍耐の時期が終わって具体的な聖餐にあずかることができるなら、その時の礼拝の喜びはやはり詩編42編の詩人が43編で表明したように、神の国の祝宴を指し示すような、すばらしいものとなるはずである。

- ③ **教会の内と外の隔ての壁を壊すため：** さらに、やむを得ない事情で普段から教会に足を運べない信仰者たちが、現にいつでも既に私たちの人間関係の只中にあることを見つめるきっかけを、今回の出来事を通して与えられるのではないか。私たちは、この機に常に病気や困難に直面している人のことを心近くに覚えて祈りたい。今現に入院しているあの姉妹や、礼拝に通うことができなくなってきたあの兄弟のことを、現状そのまま、同じ神に愛された共同体の一員として、いつも身近に心

牧会書簡（1）

に留めたいと願う。たとえば今月には、当教会の姉妹がお二人入院された（詳細は長老や牧師にお電話をくだされば、ご一緒に共有して祈りたい）。お二人とも長く当教会で礼拝をささげてきた方であり、その礼拝体験で結ばれた共同体の一致は、お会いできない時にも欠けることがない。むしろ離れるほどに、互いのために祈りが深まり、結び合わされていく、という実感を私たちはすでに持っている。

また、今回の礼拝休止によって、「見えない敵」に向き合い戦う地域社会や世界の人々と、目的を共にできることは大きなことである。私たちは、弱さを覚えるすべての人のために執り成しの祈りを続けたい。礼拝が形骸化するとき陥りやすいのは、礼拝を守る「救われた」私たちと、そうでない他者との間に隔ての中垣を築く誤りであろう。私たちは、だれもが不安と闘う現状の中で、内と外の線引きをせず、むしろ人を分かち否む冷笑や差別や憎しみ（ヘイト）などの壁を打ち壊し、泣く者と共に泣き、笑う者と共に笑う具体的な平和を実現するため、小さな力を合わせる一筋になりたい。

——以上です。

さて、もちろん私たちは、神を崇めることを第一とする保守的信仰を誇り高く示すために、万難を排して礼拝を続ける教会があることを、頭ごなしに否定するものではありません。礼拝を継続するか、休止するか、いずれの判断をとるにしても、今教会は、神の御前での、そしてこの世にあっての、「告白」の内実を示すように問われています。その意味で私は、この「緊急の事態」を、伝統的な教会の言葉をかりて、「告白の事態」(*status confessionis*)と呼ぼうと思います（そう呼ぶことで、たとえば緊急事態の不安と混乱に乗じて政治的な支配権を得ようとする勢力から距離をおくこともできるでしょう。これは場合によっては「抵抗」を認める概念です）。

長くなってしまいました。読んでくださり、ありがとうございます。最後になりますが、あなたからもまた、今回の礼拝の休止措置について、前向きな理解が得られると嬉しく思います。そして、この事態にあって、ご自分にとって神を礼拝することがどれほど重要か、そして、今隣人の命を守るためにどのような日々を生きるべきか、深く祈り問う、落ち着いた時間を重ねてくだされば、なお嬉しいです。その時間には、加えて、私のためにも、そして教会の今後の歩みのためにもどうか祈ってください。しばらく顔を合わせられないことは心苦しく、残念ですが、私たちは、主の御名において結ばれた「一つの、聖なる、公同の、使徒的な教会」に共に連なっているのですから、安心して過ごしたいと思います。またご連絡いたします。

おやすみなさい／主にあって、なお良い一日をお過ごしください。2020年3月26日

日本キリスト教会 府中中河原教会

牧師 大石周平

小会だより ～2020年度第一回臨時小会報告

3月26日（木）に行われた臨時小会において、以下のとおり決議が行われました。

I. 3月末から4月末までの「教会活動のための外出自粛要請」の件

- 本件の周知を会員への「牧会書簡」として牧師名で行い、「小会だより」とともに、会員および会員以外の祈禱会出席者等に郵送配布、ホームページ上で公開する。
- 加えて牧師/長老は電話等で、当該措置の理解を会員から得られるよう努める。会員の連絡網を整理し、別途メーリングリストを作成、外出自粛期間中のネットワークを新たに構築する。
→ メールをお使いになる方は、アドレスを小会（fuchu_nakagawara_church@hotmail.com）までお知らせください。その際、今後教会からのお知らせを、文書郵送ではなくメールで受信する希望があれば、その旨を書き添えてくだされば幸いです。
- 電話、手紙やメール等で共有された会員一人ひとりの祈りの課題は、長老・牧師にその都度共有することを会員に呼びかける。小会は、必要に応じて牧会に関するメール協議・スカイプ協議を行い、牧会上必要な「奉仕（ディアコニア）」を、牧師を中心として実践する（たとえば訪問がどうしても必要な場合や、葬儀等準備のあり方など）。

II. 4月中の祈禱会を休止する件

- 祈禱会休止と会員の自発的な祈りの交わり：4月中の祈禱会はこれを休止し、各会員間で、家庭や電話、オンライン通信による祈りの「交わり（コイノニア）」をもつことを小会として呼びかける。
- 聖書研究と教会的な祈りの訓練：牧師は、会員の「祈りと告白の訓練（ディダケー）」を期して「牧会書簡」の続報を毎週したため、郵送やメール、ホームページ上で配信する。そこに、牧師による短い聖書研究報告「旧約聖書における病と癒し」を連載し、長老による祈禱文を掲載する。

III. 3月29日および4月中の主日礼拝を休止する件

- 主日礼拝：牧師大石周平とその家族のみ教会堂で礼拝し、その際の式文・説教の原稿を、「牧会書簡」とあわせて教会員および希望者に向け配信する。オンラインによる礼拝の中継は、「宣教・伝道（ケリュグマ）」の新しい可能性という視点からもその意義を認めて計画を進め、4月中に何度かの試験的公開をめざす。

小会だより ～2020年度第一回臨時小会報告

- **聖餐と現住陪餐会員規定（内規）**：4月中に予定されていた聖餐は行わない。現住陪餐会員は、本年のみ例外的に、12月の小会において、この度の緊急措置を配慮して確定する。

IV. 教会による外出自粛要請期間の会計処理の件

- **献金**：教会での礼拝再開後に、その月の分と一緒にまとめる形で、礼拝席上献金（家庭礼拝時にささげられたものがあれば）や4月の維持献金、あるいは特別献金（含イースター献金）を受け取る。会計担当長老2名にその受取、取扱いについての判断を、小会として委託する。
- 担当長老2名の申し合わせに基づいて、教会の会計室を用いて2名による実務作業を適宜行うことを可とする。
- 礼拝休止に伴う新たな支出と、目下の財政的な問題に対応するため、牧師の研修費4～5月分を0円とする。

V. 定期小会をオンライン会議として開催する件

- 4月および定期小会は、オンライン会議として4月5日（日）午前11時30分から行う。スカイプの会議機能を利用。技術に関する担当として、長老後藤俊文が各長老のパソコン環境を確認する。会議は録音・録画せず、議長・書記に記録の作成を委ね、5月の定期小会で確定する。

以上です。

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

3月29日（日）午前10時半から、それぞれの場所で、思いを合わせ、礼拝をいたしましょう。もし、（この文書の郵送が間に合わないなどの事情で）その時間の家庭礼拝が難しい場合には、別の時間帯でも大丈夫ですので、礼拝や祈りの時をもって一週を始めてください。礼拝休止期間は、「マタイによる福音書」の連続講解説教をお休みし、「詩編42～43」の講解説教（全5回予定）といたします（聖書朗読・引用には『聖書 新共同訳』（聖書協会 1987）を使用）。急のことで、説教準備の時間が充分でない今、私には皆さんとご一緒に祈禱会で取り組み、聖書釈義と黙想を重ねてきた経緯もある一つの詩編を取り上げることでしか、説教者としての責任を負いたいように思われました。そこで、本日の説教は、日本キリスト教団出版局による「説教黙想アレティア 詩編24-51編」（2019年105号）の中の、私自身の釈義と黙想が土台となっていることをここに注記いたします。もちろん、私たちは、新しい文脈に置かれて果たされるこの礼拝の中、新しい思いでこの詩編に出会います。心を高くあげ、今ここに語りかけてくださる主のみことばに、ご一緒に耳を傾けたいと存じます。〔牧師 大石周平〕

招詞 新約聖書マタイによる福音書 11章 28節

——主の御前に心をしずめ、みことばに聞くことからこの一週をはじめましょう。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛（くびき）を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

讃詠 546

——ご一緒に、讃詠546番（『讃美歌』1954年版）を歌い、主の御名をたたえましょう。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、主なる神、
昔いまし今いまし、とわにいます主をたたえん。アーメン。」

祈禱 罪の告白と赦し／聖霊の照明を求める祈り

——全能の神の御前に、私たちの罪を告白し、赦しを求めて祈りましょう。

「全能の父なる神よ、あなたの御前に明けない夜はなく、私たちは今日も朝の光に照らされて、御前に召し出されました。愛する兄弟姉妹と共に、同じ時に、ひとつのみことばに聴き、祈りをささげる機会を与えられ、心から感謝いたします。どうか、あなたが親しくこの祈りの共同体の只中にお臨みくださり、聖霊をもって一人ひとりの心を照らし、あなたの義と愛と真とによって満たしてくださいますように。

主よ、今、不安に揺れる私たちに語りかけてください。罪のこの世にあって、また、この身にあって、わたしたちは、あなたの御心に反する方向に決定的に傾いており、あなたの命の御言葉によって新たに生き

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

ることがないならば、死の陰の谷に転がり落ちてしまうような者たちです。過ぐる一週の歩みの中で重ねてしまった罪を思っても、私たちはあなたの御前に恥じ入り、あなたの一方的な恵みにすがって、赦しを祈り求めるほかありません。私たちは、あなたの招きにもかかわらず、あなた以外の諸力に従い、襲い来る見えない不安に支配されて生きていました。みことばに聴かず、祈ること少なく、ただ自分の思いによって歩み、主なるあなたと隣人へのひたむきな愛に生きることをしなかったのです。

主よ、わたしたちは、悔いし砕けし心をもって、御前に罪を告白し、弱い私のすべてをあなたにお委ねします。どうか私たちを憐れみ、赦し、癒してください。まことにあなたは、罪びとを招き、失われた者を探し求めて、ついには見出してくださるお方です。御子イエス・キリストをお遣わしになるほどに、世を愛してくださいましたお方です。御子の十字架の血によって私たちの罪を拭い去り、汚れを洗い清めてください。救いの喜びをもって私たちを満たし、御霊を注いで私たちを聖別し、全世界にいるあなたの子らと共に、感謝をもって御名をほめ讃え、礼拝する者としてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。」

聖書 旧約聖書 詩編 4 2 編 2～7 節

——聖書に記された神のみことばに聴きましょう。

「涸れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。／神に、命の神に、わたしの魂は渇く。／いつ御前に出て神の御顔を仰ぐことができるのか。昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。／人は絶え間なく言う／「お前の神はどこにいる」と。／わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす／喜び歌い感謝をささげる声の中を／祭りに集う人の群れと共に進み／神の家に入り、ひれ伏したことを。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。／神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう 『御顔こそ、わたしの救い』と。／わたしの神よ。」

説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

今朝、病の見えない脅威のゆえに、教会から引き離されてしまった私たちは、神からも離れてしまったのでしょうか。詩編 4 2 ～ 4 3 編という古いひとつの詩に、通奏低音のように響き渡る、「**あなたの神はどこにいるのか**」(4 2 : 4, 1 1) という問いは、まさに今日から、私たちが昼夜向き合うことになる問いです。詩編 4 2 編において、詩人は、「**神よ**」「**神よ**」と繰り返し呼びわります。他の人から、「あなたの神はどこにいるのか」と問われる中で、必死に答えを探しているかのようです。あるいは同じ問いを、自らも胸に抱いていたのでしょうか。神の固有名詞をみだりに唱えることを避けるユダヤ的敬虔の伝統下であって、しかも神がどういうお方かを言葉を尽くして語ろう、ともがいているかのようでもあります。

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

「生ける神」（４２：３）、「生命（いのち）なる神」（９）、「私の岩なる神」（１０）、「私の砦（とりで）なる神」（４３：２）よ！さらには、これは原典を直訳してみると浮き立つのですが、冗長さをも恐れない「私の歡喜の歡びなる神」や「私の神なる神」（４）といった言い方もされています。まるで、なかなか振り向いてくれない愛する人に、あなたを求める自分に気づいてほしいと必死で呼びかけている人のようです。

このような場面では、神を呼ぶことそれ自体が、そのまま、「告白」の行為になっています。神よ、命の神よ！私の歡喜の極みの神よ！神への呼びかけは、そのまま、私にとって神とはどういう存在か、を表明する愛の告白、信頼の告白、信仰の告白となるのです。詩人は、呼ばわりながら、神から離れるのがどれほど辛いことかを思い知り、自分がどれほど神を必要とし、神を慕ってきたかを確かめます。そうしてついには、神を求めて声をあげる中で、次第に神が他ならぬ「私の神」と呼びうることに、自分が生きる最後の希望があることに気づかされていくのです。

今、私たちも、教会から引き離されたかのようなこの時に、同じ問いに向き合うように促されているのではないか、そう思われてなりません。翻って、いまを生きるあなたの神はどこにいるのか。あなたは神をどう呼ぶのか。神はあなたにとってどのような神として存在しているのか。詩人は、私たち一人ひとりにもそう問いかけつつ、それぞれをいわば極めて「私的な」神讚美へ、他の誰でもない、ただ神との関係における愛の告白、信頼の告白、信仰の告白へ、導いているように思われます。今お一人で礼拝しておられる方はもちろん、そうでない方も、私たちは、ひとりの神に向き合うひとりの人格として、問われるのです。ほかならぬあなたは、神を「わが神」と呼ぶことができますか？最終的には最も近い人々からも引き離されて、死に向き合うような場面を想像してみるといかがでしょう。その時あなたに最後の立ちどころは残っていますか？詩人にとってそんな場があるとすれば、それは、神にむかって「わが神」と呼びうる祈りの場でしかありませんでした。

さて、祈りにおける神との一対一の人格的な関係を強調するあまり、私は「共同体で」祈りを合わせることの意味を、軽く取り扱っているように思われたでしょうか。たしかに、詩編４２～４３編は、「私的」な礼拝に終始してこれを理解しようとするれば、結論を読み間違えてしまうでしょう。この詩には、今詩人が置かれた寂しい死の床のような現状で残された、一縷の望みにとどまらない、もう一歩進んだ希望が表明されています。それは、神との関係回復に必ず伴うはずの、神の共同体への復歸の希望です。つまり、私たちであれば、神がわたしの神であるならば、わたしは必ず兄弟姉妹との共同の礼拝の場に戻ることができる、という希望です。

この詩によれば、「わたし」（個人）が神の御前に近づく際に、聖なる共同体の交わりに——すなわち神との契約関係に基づく礼拝共同体としての民の交わりに——加わることは、いつも変わらない大事な前提なのです。そもそも問題は、詩人がいま神から遠く離れていることにあり、その一番の原因は神が私を拒み、ついには忘れてしまったことにあると言われるのですが（４２：２、１０）、それでもその事

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

実は、かつて祝祭の喜びを共にして歌った同胞から否まれ、欺きと直接の嘲りを受けて民の交わりから退けられたことによって示されたのでした。

詩人はいわば、共同体を追われた亡命者、楽園を追放された者のように、ヘルモン山系に連なる北の小さな山を臨む地域に住むことを余儀なくされたようです（たとえばイスラエル最北のダンの地などが想定されます）。詩人は、捕囚民や難民よろしく囚われたり追われたりする立場であったのでしょうか。もしくはヨブのように、同胞のいる地で兄弟姉妹から退けられ、同じ（シオンの）神学的伝統に立ちながらも交わりから切り離され、宗教的・社会的・政治的に疎外されたのかもしれない。その意味では、病の脅威によって教会の礼拝が休止してしまった私たちの状況とは、違うことも事実です。しかし、人が様々な理由で、それが疫病であれ、怪我であれ、人々との不和であれ、人々による差別であれ、礼拝から「疎外」される状況がありえることを思い知っているという意味で、私たちは詩人のおかれた境遇に共感します。

詩人は、そのとき、どのように忍耐したのでしょうか。絶望的な状況下で詩人が試みたこと、そのひとつは、「記憶」を呼び覚ました、ということです。神の御前に進み出て、共同体の兄弟姉妹と共に礼拝をした日々の恵みを「思い起こす」（42：5,7）のです。それは、自らの出自と帰属を問い、これから立ち帰るべき場所を確認して、「記憶と希望の間」（ブリュッゲマン）に共にいます神の御前に立つ作業となりました。そこで詩人は、神の「聖なる山／住まい」（43：3）から「神の家」（42：5）へ、さらに「神の祭壇」（43：4）へ、「御前（御顔の前）」へと立ち帰っていき、ついには「神の懐に憩うまでは安きをえぬ」（左近淑）ことを確かめます。こうして、私が神の民に属してきたことが、苦しい時の希望となるということです。詩人にとって神とは、神の家に現臨される方であり、あくまでも共同体における他者との交わりの中にも再び加えられる中でこそ、生き生きとした告白・讃美の対象となる存在でした。私たちにも、たとえば感染症の問題が落ち着いて、一時教会の礼拝に戻ったとしても、また何らかの突然の出来事で、倒れることも、入院することも、共同体を離れざるをえないこともありうるのですから、ここで示されたことをよくよく覚えておきたいと思います。そのような日に私たちは「記憶」に助けられる、ということです。たとえば私たちの群れの中にも、敬愛する姉妹たちが、施設からでられなくなったり、老いて家族から外出を止められたり、入院したりと様々な理由でウイルスに関係なくしばらく礼拝から遠ざかっていますが、私たちが共に礼拝した事実はわかりません。さらに、私たちには、死に分かれてもはや共に顔を合わせて礼拝ができなくなった雲のような証人たちのことを思い出すのです。私たちには、礼拝から引き離される死の現実にあって、なお希望が残されているのでしょうか。ここで、思い起こしたことに基づいて、ふたたび「あの交わり」が回復されるかどうか、が問題となってまいります。

さて、そのようなことを思いあぐねていると、この詩編が、神はどこにいるのか、という問いとともに、あなたはどこにいるのか、という問いを私たちに突き付けてくるのに気づかされます。詩人は、神によばわるなかで、どうじに、自分がどれほど神から離れているのか、共同体から離れてどこまでいってしまうのか、という自分の居場所への問いに、思い至らずにはおれないのです。詩編42編の詩人は、自分の魂への一

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

対一の問いに向き合います。いったいあなたはどこにいるのか。あの記憶の場所から、どれほど隔たってしまったことか。

説教に先立ってご一緒に読みました箇所を細かく見る作業は次の主日にさせていただくことにして、ここでは、詩人が繰り返す、魂への呼びかけのことばに注目することにいたします。全体として、ほぼ同じ文句で三回も繰り返され、魂に訴えかける力強い畳句（リフレイン、4 2 : 6, 12、4 3 : 5）です。新共同訳聖書で二文字下がって表記されるこの句によって、一続きの詩編 4 2 ~ 4 3 編が、三部構成になっていることが分かります。さらに、この畳句は、今まで確認してきた問いを凝縮するかのようになり、「私の魂」と、「わが神」との双方に真摯に向き合うような、構成の言葉になっていることが印象的です。わが魂の、共同体から遠く離れた苦境を割り引くことなく真っすぐに見つめながら、かつ神に「わが神」と呼ばれることにのみ希望があることを明らかにする句だと思います。ここでは、その構図がわかるように、あえてヘブライ語原典そのままを直訳してみましょう。

「私の魂よ」

なぜ打ち沈むのか、なぜ呻くのか。神を待ち望め。 （問われる魂の現状）

私はなお、神をほめたたえる。『御顔こそ、わが救い』と。 （神への讃美告白の希望）

「わが神よ。」

語順こそ一部前後するものの、畳句の中で用いられる動詞①「呻く」、②「打ち沈む」、③「待ち望む」・「ほめたたえる」（新共同訳「告白する」も参照）は、第一部から第三部（①42:2~7A、②同7B~12、③43:1~5）の各部に描写された魂の状態をそのまま言い当てたものになっています。ちょっと分析的にすぎるとは思いますが、端的にもうしあげますと、繰り返される句の内部構成が、当の詩編全体の三部構成と対応関係にある、その意味でも、ここにやはり、詩編全体をとくカギがあるということです。そういう思いで7節に注目してみますと、ここからは、呻き求めて打ち沈む魂が、ついに希望のうちに神讃美に方向付けられる、という全体像が見えてくるではありませんか？ この詩編は、神はどこ、あなたはどこという問いに終わるものではけっしてありません。詩人は問いながら、着々と希望の道へ立ち帰ってゆくのです。帰る先は、そう、神への告白と讃美に満ちた場所です。私たちが今週から、この道をたどって神のもとに、そして共同体の讃美の場に立ち帰ってまいりたいと願います。しばらくは顔と顔を合わせることはできませんが、私たちは、礼拝の時輝いていた互いの顔を覚えています。礼拝の記憶と帰還の希望の間であって、しばらくは孤独にさいなまれ、神に問い問われ、魂に問い問われる忍耐の時が続くでしょう。しかし、この問いにはもう答えが示されています。「わが神よ」との呼びかけと告白を、神は聞いてくださっており、私たちがもう一度、愛する兄弟姉妹と共に大胆につばを飛ばして声を合わせる場所へと立ち帰らせてくださるといふ、希望の答えです。祈りましょう。

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

祈祷 感謝／執り成しの祈り

全能の父なる神よ、あなたは天と地とそこにあるすべてのものを作り、これを保ち、支え、くすしい御旨（みむね）をもって導いておられます。またあなたは、今もなお私たちのただ中で大いなる御業を行い、キリスト・イエスの救いにあずからせ、あなたの御元に立ち帰った私たちの魂を、聖霊によって満たして、新しい命の希望のうちに生かしてください。私たちはいと低きものたちですが、あなたの御業を思い、わたしたちに豊かに確かに注がれている慈しみを思い、御名をほめ、心からの感謝をささげます。

神よ、いま新しい局面にあつて、あなたを仰いで歩み出した私たちの群れを、顧みてください。あなた以外のものに、とくに恐れと不安、不満と高慢に支配されることなく、あなたの御子の十字架の真実を常に私たちの目の前に覚えて歩むことをえさせてください。

私たちと同じ困難に直面している近隣の諸教会を、そして全世界にあるあなたの教会の歩みを導いてください。とりわけ日常生活を奪われた中でささげられる礼拝を、あなたが祝福して下さいますように。主の体なる教会を励まし、あなたが負いやすくして下さるそれぞれの軛を、確かに担うことができますように。あなたの福音をすべての人々に、とりわけ不安のただ中にいる人々に、宣（の）べ伝えさせてください。悲しむ者とともに悲しむ仕え人を、働き人をお遣わし下さい。

主よ、あなたは、私たちすべての者の必要をご存知であり、それを完全に満たして下さるお方です。心身の病に苦しむものを顧み、励まし、支えて下さい。愛するものを失い悲しむ私たち、多くの悩みのうちにたたずんでいる者みなを慰めてください。貧しさの中で叫ぶ者、飢え渴いて求めるものを満たしてください。争いの渦に巻き込まれているもの、見えない敵と戦う医療従事者、ゆえなく囚われている者、圧迫されている者、災害後の痛みを負い続けている者を自由にして下さい。重責を担っている者、とくに、国々の代表者、人を裁く立場にある者、子どもたちに教えるつとめをになっている者、宗教者、人の上に立っている者が、あなたに対し、真理に対するおそれをもって、事にあたることができますように。新しい歩を始めようとしている子どもたち、若者たちの成長を見守ってください。年をかさねた者たちをはじめ、すべての者を、あなたにある平安のうちに憩わせてください。

どうか私たちを御手の導きの内においてくださり、今日からはじまるこの一週をあなたにささげ、それぞれの生活の場、それぞれ遣わされた場所であなたに仕える者として歩ませてください。そのうえですべてを、あなたの栄光のもとに照らし、御国の完成に役立ててください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

信仰告白

——使徒信条によって、私たちの信仰を言い表しましょう。

礼拝式文・説教「礼拝の記憶と帰還の希望」

「我は、天地の創造主（つくりぬし）、全能の父なる神を信ず。

我は、その独り子、我らの主イエス・キリストを信ず。

主は、聖霊によりてみごもられ、処女（おとめ）マリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦難（くるしみ）を受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府（よみ）にくだり、三日目に死者の内より復活し、天にのぼりて全能の父なる神の右に坐し給ふ、か
しこより来たりて、生ける者と死にたる者とを審き給はん。

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、体の復活、永遠の生命を信ず。アーメン。」

奉献と祈祷

——主の恵みに対する私たちの感謝と献身のしるしとして、献げものを献げましょう。

（家庭礼拝で席上献金をなさる場合、教会では、礼拝休止措置が終わった後の最初の礼拝でまとめて受付いたします。維持献金やイースターなどの感謝 献金、特別献金も同様になります。）

主の祈り

——（「献金の祈り」に続いて声を合わせて）

「天にまします我らの父よ、願わくは、み名をあがめさせたまえ。み国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用のかてを、今日も与えたまえ。我らに罪を犯す者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄とは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。」

頌栄

——頌栄 5 3 9 番を歌い、主の栄光の御名を讃えましょう。

「あめつちこそりて かしこみたたえよ、みめぐみあふるる 父、み子、みたまを。
アーメン。」

派遣と祝福

「平安のうちに行きなさい。希望と喜びのうちに主に仕え、すべての人に愛を伝えなさい。主イエスは世の終わりまであなたがたと共におられます。」

「主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共に
かぎりなくありますように。アーメン。」

——以上で礼拝を終わります。

報告：教師渡辺信夫逝去（3月27日、96歳）

聖書の学び（予告）「旧約聖書における病と癒し」

- 4月から、木曜日の祈祷会もまた休会になりますが、こちらに、次号（第二報）から、聖書の学びの手引きとして、「旧約聖書における病と癒し」と題した文書を数回のせることにいたします。以下のオンライン辞書（WiBiLex “Krankheit und Heilung (AT)”）にまとめられたいくつかの聖句を取り上げながら、今の私たちがおかれた状況について、いづらか自由に沈思黙考するための視座をえようという小さな試みです。日々の祈りに先立って、聖書を読む機会をもってくださいと願いつつ。

<https://www.bibelwissenschaft.de/wibilex/>

ここでは、取り扱う可能性のある表題のみご紹介をします。限られた回数で行いますので、もしこの主題を、という語希望があれば、牧師までお知らせください。

病と弱さ

病と罪の関係

聖書時代の医療

医者としての YHWH（主）

YHWH（主）と医者らの対立

病と悪霊

癒しと薬

伝染病・流行病

天然痘

重い皮膚病

麻痺

目が見えないこと耳が聞こえないこと

寄生

痛みと傷

男性や女性、あるいは子どもに特有の病……

日々の祈り（予告）付：カルヴァン「夜、眠りに就く時の祈り」

- ・ また、次号からはこちらに、長老四名に「日々の祈り」を寄せていただきます。病や痛み、人生の悩みなどに関わる率直な祈りの言葉をもって、私たちの祈りを導いていただきたいと思います。ここでは、3月27日に召された教師渡辺信夫先生を追悼しつつ、先生の訳による**ジャン・カルヴァン「夜、眠りに就く時の祈り」**（カルヴァン著、渡辺信夫編訳『ジュネーヴ教会信仰問答』、新地書房、104 頁）を転載させていただきます。

「主なる神よ、あなたは人が労働に携わる昼を創造されたと同様、人々の憩いのために夜をお定めになりました。願わくは今夜、私の肉体が憩いを得、魂はその間あなたにむけて目覚め続けて止まず、私の心が衰えたり、無感覚に埋没することなく、むしろあなたを愛する愛の内に固く立つようにして下さい。このようにして魂がもろもろの思い煩いを離れ、恵みによって休みを得、解放される時も、あなたを忘れたり、あなたの慈しみの記憶が失われたりすることなく、それが私の精神のうちに常に固着して止まぬようにして下さい。こうして、肉体が休みを得るように、我が良心も平安を受けることが出来ますように。さらに、肉の楽しみに耽るままに眠りこけるのではなく、目覚めて後いよいよあなたを崇めるために、この本性の弱さが必要とするかぎりの休みを自らに許すようにして下さい。最後に、私の魂のみならず私の肉体も、貞潔に、汚れなく保ち、すべての危険から守り、私の眠り自体もあなたの御名の栄光に仕えることが出来ますように。しかし、この日も様々に悪に傾き、あなたを怒らせたてまつることなしには過ぎゆきませんでしから、夜の闇が全てを今覆うように私のうちのもろもろの罪をあなたの憐れみによって埋め隠して下さい。父にして救い主なる神よ、私の祈りに耳を傾けて下さい、あなたの御子イエス・キリストによって。アメン。」

日本キリスト教会 府中中河原教会

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

電話 042-354-3044

Fax fuchu_nakagawara_church@hotmail.com

<https://www.fuchu-nakagawara-church.com>